

大網白里市国土強靱化地域計画 概要版（令和4年度～令和7年度）

本計画の趣旨

あらゆる災害やリスクを見据えて、人命の保護が最大限に図られ、どのような事態が発生しようとも最悪の事態を避けるために、強靱な行政機能、地域・経済社会を事前（平常時）につくすることを目的としている。そのため、国・県・近隣市町村・各種関係団体等との連携を強化し、いかなる自然災害が発生しても本市が掲げる「住みたい・住み続けたいまちづくり」が停滞することがない「強さ」と「しなやかさ」を備えた安全・安心な大網白里市を構築するものとする。

1 「基本目標」

いかなる自然災害等が発生しても、以下の4項目を基本目標として設定。

- (1) 人命の保護が最大限図られること。
- (2) 市及び地域の重要な機能が致命的な障害を受けず維持されること。
- (3) 市民の財産及び公共施設に係る被害の最小化が図られること。
- (4) 迅速な復旧・復興を可能にすること。

2 「事前に備えるべき目標」

- (1) 大規模自然災害が発生したときでも人命の保護が最大限図られる。
- (2) 大規模自然災害発生直後から救急・救助、医療活動が迅速に行われる。
(それがなされない場合の対応を含む。)
- (3) 大規模自然災害発生直後から必要不可欠な行政機能は確保する。
- (4) 大規模自然災害発生直後から必要不可欠な情報通信機能は確保する。
- (5) 大規模自然災害発生直後であっても、経済活動を機能不全に陥らせない。
- (6) 大規模自然災害発生直後であっても、生活・経済活動に必要な最低限の電気、ガス、上下水道、燃料、交通ネットワーク等を確保するとともに、これらの早期復旧を図る。
- (7) 制御不能な二次災害を発生させない。
- (8) 大規模自然災害発生直後であっても、地域社会・経済が迅速に再建・回復できる条件を整備する。

3 「リスクシナリオの設定」

国の国土強靱化基本計画及び県国土強靱化地域計画、本市の地域特性等を踏まえ30のリスクシナリオ（起きてはならない最悪の事態）を設定。

- ・建物等の大規模倒壊等による多数の死傷者の発生
- ・大規模津波等による多数の死傷者の発生
- ・食糧及び飲料水等、生命に関わる物資供給の長期停止 他27

4 「脆弱性の分析・評価」

リスクシナリオ（起きてはならない最悪の事態）を回避するために、30のリスクシナリオを縦軸に9つの施策分野を横軸に配置したマトリクス表を作成し、リスクシナリオごとの施策として整理。個別施策ごとに課題や進捗状況を把握し、施策の脆弱性の分析と評価をする。

脆弱性評価のポイントは以下の3点とする。

- ・ハード整備とソフト対策の適切な組み合わせと施策の重点化
- ・代替手段等の確保
- ・国・県・市町村及び民間等との連携

5 「リスクシナリオへの対応方策」

リスクシナリオごとの脆弱性評価の結果に基づき、起きてはならない最悪の事態を回避するために必要となる対応方策を検討。

(例1) 道路・橋梁等の維持管理

- 【脆弱性評価】 道路・橋梁等は長寿命化修繕計画に基づき、維持管理・補修等を進めているが、救助や救援活動が迅速に行えるよう、今後も計画的な維持管理・補修等を進める必要がある。
- 【対応方策】 道路は、交通量や補修履歴を勘案し、計画的な維持管理・補修を推進する。橋梁等は、長寿命化修繕計画に基づき、予防保全型としての修繕を推進する。

(例2) 行政データの保全

- 【脆弱性評価】 庁舎（サーバ室）で管理する行政データ（バックアップデータを含む。）は、庁舎（サーバ室）の被災により喪失する恐れがある。
- 【対応方策】 全庁ネットワークにおけるバックアップデータ（共有ファイル・メール等）及び仮想サーバで運用中のシステムのバックアップデータを遠隔地や媒体で保存するなどの手段を検討する。